

# シンガポールで野鳥を見る

市立札幌開成中等教育学校

小笠原 昂

## 〈はじめに〉

僕は小学4年生から野鳥観察が好きで、これまで北海道でたくさんの野鳥を見てきました。しかし、野鳥を好きになって海外の鳥も見たくなったときにはすでにコロナウイルスが流行っていて海外に行くことはできませんでした。そんなときにこの事業の募集がありました。僕はこの機会を活用して、シンガポールでたくさんの野鳥を見てきました。ここでは、その一部を紹介しようと思います。

## 〈シンガポールの鳥たち〉

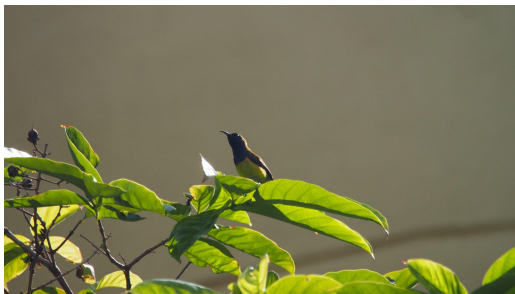
・ジャワハツカ(Javan myna)※諸説あり

黒い体に目の周りの黄色いアイリングが特徴の鳥。シンガポールでは身近で見られる鳥の1つで、日本のカラスのような存在。



・キバラタイヨウチョウ(Cinnyris jugularis)

黄色いお腹と紫や青に光る喉が特徴のきれいな鳥。小さくて嘴が長く、ハチドリのような違う仲間。



・ナンヨウショウビン

(Collared Kingfisher)

青い背中と白いお腹が特徴の鳥。「ケッケッケ」と鳴く。北海道にはこの仲間のカワセミとヤマセミが生息している。



・アカガオサイハウチョウ

(Orthotomus ruficeps)

主にマングローブに生息している小鳥。体は小さいけど大きくてきれいな声で鳴く。シマエナガより小さく体長は10~12cm。



### ・コアオバト

(Pink-necked Green Pigeon)

スンゲイブロウ湿地保護区のトイレのマークにも使われている鳥。オスは胸がピンクや紫で色鮮やか。



### 〈まとめ〉

14日間で34種の野鳥を観察することができました。見たことない鮮やかな鳥ばかりで、インターネットで見た画像より何十倍も綺麗でした。また、スズメやダイサギなど日本でも見られる鳥もいました。それらの鳥たちは環境への適応能力が高いと考えました。

### 〈終わりに〉

実際にシンガポールに行く前は、現地の人たちとの交流や文化体験など楽しみなことがたくさんある反面、バディやバディの家族と会話が通じるか、仲良くなれるかなど心配なこともたくさんありました。しかし、実際に行ってみると楽しいことだらけでした。市内観察では、現地のガイドさんが一つ一つ丁寧に教えてくださったおかげで自分で見るより多くのことを知ることができました。体験入学であった生徒や先生はみんな親切で、なにか困ったことがあればすぐに助けてくれました。

今回の事業でたくさんのことを学ぶことができました。このことは一生忘れることはないと思います。バディとその家族、私たちの留学を支えてくださったMOELC日本語学校の皆様、この機会を与えてくださった札幌市の皆様、お世話になった全ての皆様、本当にありがとうございました。



←↑バディのSim Emiliano君